

I. 2023年7-9月第2四半期のショートアプローチの紹介

2022年7月より皆様と情報を共有している「メタ研ショートアプローチ」の2023年7月～9月の発行分は、下表のとおりLME、自動車、中国、ベースメタル、リサイクルの9件になりました。

メタ研のWeb会員サイトに閲覧コーナーを設けておりますので、会員の方はぜひ閲覧ください。今後も引き続きショートアプローチコーナーに掲載した記事の表題はメタ研通信でお伝えしますのでご確認ください。

2023年7月5日～9月28日

No	タイトル等		カテゴリー
51	LME、ニッケル取引に関する訴訟の審理が始まる		LME
	2023.7.5	LMEにおける昨年3月8日のニッケル取引取り消し措置に対して、米国企業2社が提訴していた件に関する審理が6月20日から始まった。原告、被告双方の主張を紹介するとともにLMEの主張に対して筆者の見解を述べる。	
52	電気自動車と材料(6) - 安全 -		自動車
	2023.7.14	EVとガソリン車の火災事故に関する特徴や日・米・中での発生件数の捉え方、主なEV火災の原因である事故と初期不良に対する対策状況について解説する。	
53	「中国、アルミニウム、そしてその周辺」その(4)(スジ vs 量)		中国
	2023.7.26	物事を日本人が「あるべき姿」の「スジ」で考えるのに対して中国人は「どの程度の影響があるのか」という「量」で考えるとの説について、筆者のこれまでの中国での経験を踏まえて確認する。	
54	銅への投資はなぜ鈍いのか		ベースメタル
	2023.8.7	中長期的な銅需給について、送電分野を中心に今後も増加するとしているIEAの需要予測に対して、ICSG(国際銅研究会)のデータ等を見る限り大きなギャップは生じないとみることが出来る。一方、新規鉱山開発への投資意欲を減退させる様々な課題・懸念があることからそれらの現状についてレポートする。	

	LME 銅相場の先行きを読むには		
55	2023.8.14	今年1月から7月末までの LME 銅の3か月先物(3M)の値動き(5月まで下げ、それ以降の半値戻し)を題材に、これまで相場の行く先を読み当てるために使われてきた各種の手段・ツールについて解説するとともに、筆者が現時点で超先物相場(5年、10年)の推移を最も信頼する指標として考えている理由を述べる。	LME
	バーゼル条約改定と E-Scrap		
56	2023.8.24	2025 年に予定されているバーゼル条約改定により E-Scrap 貿易が厳しくなると考えられているが、一方で先進国を中心としたサーキュラーエコノミーへの移行を受けて E-Scrap の重要性は増している。本レポートでは E-Scrap に関する世界の最新状況等について取りまとめるとともに、この分野で出遅れ気味の日本への影響等について述べる。	ベースメタル
	将来の EV コスト見積もり -トヨタ EV・電池戦略の読み解き-		
57	2023.9.8	トヨタが平成24年3月期まで有価証券報告書で報告していた製造原価のデータを参考に最新の製造コストを推定し、トヨタの EV・電池戦略をコスト視点から紐解くこととする。	自動車
	「循環型産業の高度化」(6) ～首都圏自営ヤードにミックスメタル選別機導入現業機能の強化に乗り出した非鉄専門商社～		
58	2023.9.15	中国の環境関連政策の動向を順次先取りし、非鉄再生事業の新設・改廃で対応している三報物産は、首都圏に設置した自営ヤードにミックスメタル選別機を導入する等旧来の非鉄専門商社の業態を超えた現業機能を導入し、高品位原料の安定供給体制を構築している。	リサイクル
	原油の超先物市場		
59	2023.9.28	前回のレポートで、銅相場の先行きの判断材料として超先物価格の動向について説明を行ったが、今回は原油の超先物市場について銅市場と比較しつつ解説を行う。	LME